

(仮称) 門真市自治基本条例を考える市民検討委員会
第6回 検討部会 議事録

平成23年2月17日
門真市立文化会館1階ホール

議長：定刻になりましたので、ただいまから第6回（仮称）門真市自治基本条例を考える市民検討委員会検討部会を開催させていただきます。皆さんこんばんは。足元が悪くお集まりいただきまして、ありがとうございます。先ほどの天気予報によりますと、これから雨脚が強まるとのことです、お帰りの際はお気をつけていただきたいと思います。それでは、まず事務局より連絡事項等がありますので、よろしく願います。

事務局：それでは、案件に入らせていただく前に本日の資料の確認をさせていただきます。お手元の資料ご確認ください。まず、1ページ目が検討部会の次第、2ページ目が自治基本条例の原案の叩き台、6ページ目が第5回検討部会会議報告書、7ページから8ページが市内のNPO法人の一覧となっております。そして別紙として第8回検討部会の開催通知、以上、資料お揃いでしょうか。印刷ミス等ございましたら事務局までお願いいたします。では事務局からは以上です。

議長：ありがとうございました。それでは、本日の案件に入らせていただきます。前回同様、活発な意見交換を行っていただき、有意義な時間となるようよろしくお願い申し上げます。それでは、今後の進行は委員長よりよろしくお願い申し上げます。

委員長：あらためましてこんばんは。よろしく願います。私のほうで、2ページ目3ページ目の方に、前回少しお配りさせていただきましたが、条例の原案にもならないようなものですが、形を見ながら進めていければと考えています。パソコンに不具合があって、ファックスで市役所に送ったので、見づらい点があると思いますが、見づらい点は、太字になっている部分が加筆・修正した部分です。まず、最高規範性については前回、議論がありませんでしたが、これまでの議論の中に出ておりましたので、書き加えております。最高規範性の言葉自体を巡ってはいろんな議論がありますが、基本的にはどう考えるかということですので、まちづくりにおける守るべき基本ルールを定めたら、その後、条例規則の制定改廃のときにもこの条例を尊重するとい

うような規定です。そのうち市民の権利と義務という意見をいただきましたが、義務という表現をしなければならぬと意見が前回出されましたけれども、情報を知る権利とか参加参画する権利とか、どうしても一方で権利を使うと権利と義務という見出しになってしまいましたけど、またこの点も策定会議の場もありますし、いろんところで修正していければと思います。その市民と権利の頭の所に「市民は自助努力に努めなければならない」という言葉を付け加えさせていただきました。それから次のページになりますと、一番上に「必要とするところに必要な情報が届くように」ということを加筆しています。次に職員の責務のところ、「職員は、全体の奉仕者として適法かつ公正に職務を遂行しなければならない」それから「職員は、要望等を口頭により受けたときは、その内容を確認し、簡潔に記録をするものとする。この場合において、当該記録をするに当たっては、不実又は虚偽の記載をしてはならない」主に、議員さんらの口利きというものが想定の対象となっているのではないかと思いますし、あるいは市民の方から、要求・要望もそういうものに加えているのではないかと思います。それから協働の中に含めたのですが、一緒にやってみようということ、二つ目の〇〇条を見ていただきますと、「市民は職員と協働して、職員が適法かつ公正に職務を遂行できるように支援しなければならない」ただ、これは条文がこうなっていたとしても実際どういう仕組みを作るかは、またこの条例の次の段階で必要になってくると思います。それから「市民と職員は本音で意見交換をする場を設けるよう努めなければならない」それから「市役所は、市民サービスの公正さを保ち、市民サービスの向上を図るために、モニター制度を導入する等、市民と共に行政評価に努めなければならない」こんな表現を少し付け加えさせて頂きました。こういう形で議論を積み重ねていく度に、言葉を付け加えて行きたいと思います。またお気づきの点がありましたら、ご指摘頂けたらと思いますし、あるいは事務局に連絡して頂ければ、徐々に修正していきたいと思っておりますし、検討部会で貴重な意見を頂いたものについて、策定部会でより充実した文章にしていければと考えております。以上です。

今日はとりわけ、団体活動とかコミュニティの様々な活動についての議論をしていきたい思います。もう既にこれまでも出て来ましたが、地域によっては人間関係が疎遠な地域もありますし、教育については、地域が子どもを教育するのみならず、親を教育することも、地域コミュニティの役割として必要なのではないかと議論もこれまで出てきました。さらには、様々な地域の能力と言いますか、各専

門の団体がありますから、そういったものが、どうネットワークを結んでいったら、より良い地域形成に向かえるかというような意見も出ていたと思います。そうしたことも踏まえて、重複しても構いませんので、前回と同じようにコミュニティと市民団体に関連して、意見交換をしてみたいと思います。よろしく申し上げます。

まず、どなたかから、コミュニティをこんな風にしたほうが良いと言うような議題の口火を切っていただいて、そこから議論を進めて行きたいと思います。前回と同様に積極的に発言していただければありがたいと思います。ではよろしく申し上げます。

委員A：前回の話の中で、ボランティアとかNPO法人の活動に、若い人たちが参加してないって言うような話があったかと思うんですが、私もボランティアとかNPO法人の活動に参加していないので、今日こられている方々は、ボランティアとかNPO法人の活動にかかわっていらっしゃる方が多いと思うので、その辺の実状を教えていただけたらなと思います。やはり、年配の方が多いいものなんでしょうか。

委員B：具体的にはあれなんですけど、たくさんはいらっしやいませんね。

委員C：あまりたくさん非営利に行ってしまうと経済活動が滞りますよ。働いてもらわないと。

委員D：私も自治会とか消費生活研究会に入っているんですけども、実際、主力メンバーの年頃っていうのが70代なんですね。それで、本当にこれから活躍していただきたいのが、たぶん65歳、定年を迎えた方たちが主力メンバーになってくると違うかな、なって欲しいなと思うんですけど、それというのも、20代、30代も少ないっていうお話がありましたけれども、私らの年頃になると、親の介護とか親の病気とかでコンスタントに出れなくなってくるんですね。どっちにしても、そういうことを優先していかなければならないので、そういうことから手が離れている年代というのが結局、60歳代位なんかな。で、社会経験も職業人として経験されている方も多いですし、女性の方でもいろんな団体でも、ボランティアでも会計とかあるじゃないですか。そういうものの運営の方法とか、よく学んでらっしゃると思うので、これからのボランティア団体とかNPOさんとかは、60代の人々が主力になっていくのがいいなって思うんですよね。実際、消費生活研究会も私が最年少なんですね。上は、親世代より上の方もいらっ

しゃるので、70代、80代の方も。それで、実際に若い人が入るとなんでも、じゃあ、若い人よろしくってなっちゃうんですけども、実際、右見ても左向いてもわからない状況で任されて後で文句言われても。間をちょっと上手につなげてほしいなとすごく感じます。だから、先ほどおっしゃられてたみたいに20代30代の方は家庭もつくりなれないといけない、それぞれ結婚して子育てして。それにかかるお金もたくさんありますよね。そういう面でやっぱり、どういう場で参加するというのをすごく考えていかないといけないと思います。ただ現にNPOとかボランティア団体という部分では若くて元気な60歳代の方がこれからやりがいのある時期なんじゃないかと思います。そこでつなげてくれないと後がちょっとしんどいので、それはもう実感です。

委員E：はい。

委員長：どうぞ。

委員E：私は、子ども会、PTA、自治会、一通りボランティアはやらせてもらいました。それも今こちらの方がおっしゃったとおり、子育てするのがPTA活動、子ども会で、定年された方は別の組織でやればいい。やはり、その場その場の組織で活動しにくくなっている。私はサラリーマンでしたから、土日休みだし、PTAは教育委員会直結だから月曜日から金曜日、行事は土日開くけれども。子ども会、自治会にしたら土日がメインの行事、役員会は別ですよ、平日でも夜できるんです。だからよくPTAの会議をしても以前は平日の1時とか。色々今お母さん方が働かれるので土日にしようとか、だんだん会議のやりやすいようになってきている。この会議においても事務局が色々調整して、私からしたらこんなのは無駄、日を決めてしまったらいいわけなんです。そうしないと書類ももったいない。3日だったらパソコンの時代なんだから、役所の書類は通達何号とか書くけれども。だから今おっしゃるように65とか定年を迎えたら迎えたなりの組織の活動をすればいいんです。子育てするときは子育てのPTA活動しないといけないわけなんです。だから、PTAだったら、教育委員会が考えて土日にするとかの方向性、そういう知恵を出してやっていかないと、この自治基本条例も大変だと思います。色々お考えはあるかもしれませんが、私はそう思う。以上です。

委員長：はい、ありがとうございます。よろしかったですか。

委員D：はい、今PTAのことおっしゃられたんですけども、私もさせていただいているので、実際、運営委員会・実行委員会はほぼ土曜日午前中に実施されている現状で、母代という活動も含めて、最近は土曜日が多いです。講演会でも、お母さん方が出やすい日と考えてもどうしても土曜日。あと他の団体さんの活動の兼ね合いもあるんですけども、例えば11月の第2土曜日は研究発表大会にという形で、他の出席しなければならないものは第3土曜日とかいう形で組まれていってるんですね。現実帰ってこられないから今、仕事が遅いので、7時からといってもここも含めて9時まで使える時間が限られるじゃないですか。そうしたら結局2時間で話を片付けないといけない。すごくタイトなので、それだったら土曜日にしようかとかいう形がすごく増えてきています。なので基本ほぼ土曜日ですね。おっしゃられていたように子ども会はほぼ土日、私たちの校区では子どものキックベースだけでなく、大人のキックベースもあり、教育委員会からとても評判の悪い試合なんですけど、そこにはやっぱり20代30代の方がかなり集まってくれています。そういうのが今の現状です。PTAと子ども会の役員はある程度半強制的に順番で回ってくるので、有無を言わずほとんどの人が経験する団体活動なんじゃないかなと思います。逆にそのあり方の問題なのかな、ボランティアにつながらないのほとも思います。

委員長：はい。

委員C：こういうコミュニティ活動なんですけれども、勤めに出ている人たちに、じゃあ時間決めてこの日はこれに参加してくださいっていうのは、そこまでしなきゃいけないものなのかなっていうのは頭によぎったんですけども。勤めている人たちは会社のためにも働かないといけないわけじゃないですか。すると会社で重要な何かがあったときに、その人は必ずそこへ行かないといけないと思うんですよ。地域コミュニティで何かあったとしても。その人をコミュニティのためにこの日何とかしてくれっていうのは…もしそうするのであれば、ちょっと負担は大きいかもしれませんが自営業の方とかであれば自分達の時間をつくれるわけですよ。とりあえずはそういった人たちを中心にコミュニティをつくってもらって、その中で、どういった形で勤めている人たちが入れるかというような形にしたほうが良いんじゃないかなと。ちょっと話を聴いてると、何とか皆さん平等に参加しませんかという

ような話にいつているような気がして、それはちょっと強引じゃないかなというのが今ちょっと頭によぎったんです。

委員F：あの、いいですか。

委員長：はい。

委員F：私の考え方は真逆なんですね。コミュニティに参加することこそ非常に重要であって、ただ仕事も大事、家庭も大事だし。そこでコミュニティに参加することがまず自分の責務といたしますかね。そういう考え方を持って、そこに助け合いとか、例えば子ども会私経験しているんですけども、順番に来るんですよね。で、私たちのところの場合PTAと子ども会の役員というのは、6年生の子ども会の役をしたら学校の役員をしないといけないんですね。それは、子ども会で役をした人は外してあげるといような形で。とにかく順番に回ってくるわけなんです。そうしたら、赤ちゃんが生まれたばかりのお母さんがいて、その子も抽選に入れろという意見が出たんですね。でちょっと待って、いつまでも赤ちゃんじゃないんだから来年か再来年でもいいじゃないかと言うんだけど、やっぱりそこに助け合いとかそういう精神を持ってやっていかないといけないと。そういう思いやりとか助け合いとか、そしてその中で喜びを感じるという場にしたいわけなんです。私は。だから基本的に住民はコミュニティに参加するのが必要不可欠であって、ただできることとどうしてもできないことがありますので、そこは話し合いをしたり譲り合ったり。今年は母親の介護があるからちょっと先をお願いします、じゃあ私先やるよ、とかいうような譲り合いが自然に出てくるべきものなんだと。だからどっちかと言うとコミュニティに無理やり参加させるのではなくて、参加することがまず住民として必要不可欠、また若い人でも年老いていくわけですよね。だから私が今言っているのは、定住を前提にしているわけなんですよね。そうすると若いお母さんは赤ちゃんを抱えて大変だから、手を離れるまで待ってあげよう、もうお年寄りで歩くのもしんどい人は外してあげようとか。ということで私はコミュニティに参加することが住民としてとても大事じゃないかなと。

委員C：つまり柔軟性は持っているということですよ。

委員F：もちろん。

委員C：それならいいんです。ずっと話を聴いてるとそっちこそが中心みたいになってしまって、そういった事情とかいうものがまったく無視されていく方向に行かないのかなというのが怖いんですよ。ですから柔軟性があればこれ以上の意見はないです。

委員F：住民として必要不可欠なコミュニティの参加というのをもし提唱するのなら、当然思いやりや助け合いがなかったら無理ですよ。だから、できる人だけ参加するっていうことだったら、そういう思いやりがだんだんなくなってって、あなた若いんだからやってよとか。ある方が自営業でお父さんが働いていて自分は家で事務をやっているんです。そうしたら何でも私にさせる、家にいるんだからやると。もう最後に爆発して、私暇なんじゃないんだよって。

委員C：そういうのも喜んで受け入れる人がいてないとだめじゃないですか。どちらにしても文句が出てくるような形にしてはいけないと思うから、あまり無理矢理その方向に行き過ぎるのもどうかなと思ったんです。

委員F：そうすると言ってることは真逆ですよ。私はコミュニティに参加することが必要…

委員C：否定はしないですよ。ただそっちに行き過ぎるとどうかなというのがあったからちょっといいんですかと言う風に…

委員F：行き過ぎるというのはどういうことですか。

委員C：要するに、あまりにもこれ良いですよねと言ってしまうと、参加する方向に行っている人たちはとても素晴らしくて良い人ってなったときに、参加しない人たちはいったい何者なんだ、何しているんだという風な方向に行くのが怖いんですよ。

委員F：だからそういう考え方を持たないのが大前提ですよ。

委員C：だからそういう風になってくれれば良いですよ。ただ、その不安がないわけじゃないんですよ。

委員G：あの…

委員長：はい。

委員G：参加しなければならぬコミュニティなんてつくる必要がない。みんなが参加したいコミュニティをつくっていくような条例にしようということじゃないんですかね。

委員C：そういう意味です。

委員H：私もちょっといいですか。一番皆さんがひとりひとり考えないといけないのが、やっぱり一人では生活できませんよね。みんなに世話になって生活してますよね。その中で皆さん社会貢献・社会奉仕をやっていくのかということですよ。それをひとりひとり持ったら別に団体でできる人はそこで社会貢献して、できない人は一生懸命仕事をがんばる。基本はどちらにしても誰かの世話になってるから、お互いに助け合っていないといけない。助けてもらったときに、私も皆さんのために貢献したいだとか、そういう心をこの中に謳ってくれたら良いかなと思う。誰がどうとか型にはめてしまったら、先ほど言われたとおり、仕事しないといけないし、コミュニティのことしてくれと言われてもできないし。やはり人間としてみんなに助けてもらっている、自分が助けられるときに手を差し伸べようか、と思うんです。

委員I：はい、いいですか。

委員長：はい。

委員I：先ほどのお話にもあったと思うんですけど、PTAはPTAであったり、自治会は自治会であったり、その人たちのライフスタイルに合わせて今、いろんな組織があって動いている方もいて。でも働いてまったく参加されていない方もいる。で、先ほどおっしゃられていたとおり、コミュニティが参加しなければならない場所になるのはおかしいと私も思っていて、ただ、いろんな状況の人たちが一緒に話ができる場というのが一番求められているんじゃないかなと、いろんな世代の人たちが、自分は今こんなことに困っているとかいうのを言える場にならないといけないなと思うので、先ほどおっしゃっていたとおり場所とかもないとか、みんなが集まれるのは夜だけど夜に使える場所もないとか、そういういろんなことがあって。でも前提としてその

世代その世代がやればいいじゃなくて、全部の世代と一緒に考えたり行政職員が皆さんの意見を聴きたいときに、働いているからこの人の意見は吸い上げられないということではだめだと思うので、そういうのが解決できるような場になればいいなと思っています。

議長：一例なんですけれども、文科省の事業で、学校支援地域本部事業というのを現在門真市内の中学校区単位で進めております。その学校支援をしていただくボランティアを地域の方に募っているのですが、これはできるときにできることだけ、いつでもいいんです。ですので、お仕事されていて、それぞれプロとしてお仕事されているわけなんですから、そのお仕事の内容を子ども達に教えてあげてください、例えば工場で働いている方々なら、旋盤の回し方は力学的にはこういうことになっているんだとか、こういうテクニックが必要であるとか、これは子ども達にとりましたらひとつの社会経験ですから。積極的に地域の方々に呼びかけてサラリーマンの方で、有給休暇をたまたま取れた、時間が合えばの話で、決して無理強いはしない形でボランティアするという一例もあります。ですから大体分野別に分けて、それぞれコミュニティをつくっていけばいいんじゃないかなという風に思います。これですと強制はしません。だけどコミュニティに参加することはできるという風に思います。

委員C：それは教えにいった人たちが、私はこういう知識と技術を持っているから、次の世代に伝えていきたいなという人をあてると。

議長：はい、そうです。

委員C：それすごく良いと思います。結局人間って、ちょっと上に立ってものを教えるのは結構行きやすいと思うんですよ。ただ単純に役に立つからっていうより、自分の培ってきたものを教えてあげようってなると、ちょっとえらい感じするじゃないですか。自尊心がくすぐられる、そうなる行きやすいと思うんです。私も今そういう仕事を探してやっているんですよ。そういうのが好きで、自分がやってきたことを教えてあげたいというのがあるので、その形は良いと思うんですけどね。

委員F：ただ…

委員長：はい。

委員F：その学校支援ボランティアは何人活動していらっしゃるのですか。

議長：正式に門真市に登録されている方で50人くらいですね。

委員F：50人。で、実際に50名の方がどこかで活動されているんですか。

議長：はい、時間が合うときにやっていただく形になっています。なので、決まっているのではなくて、ボランティアの方ができる日、できる時間にやっていただいています。

委員L：私もその例として、中学校の理科の実験に行ける日があったら行かせていただいています。子どもたちが待ってるよという校長先生のお話もあったんです、大変面白いからということ。特に科学実験ですので、いろんなことさせていただいたら、子どもたちともお話をさせていただいて楽しい時間を過ごしています。で、いろんなことを教えてあげて、最後にはありがとうございます。そういうことをやっていると、親御さんからもお世話になっていきますという返事もいただきます。だから先ほど言われていたようにできる日、できる時間にさせてもらいたいと思います。

委員E：色々話させてもらっているんですが、結局子育てするときは子ども会、学校行きでしたらPTA、大きくなったら自治会や色々あるし、やっぱりそういう形で地域でやっていかないと。今言われた技術があるとかいうのは別の問題でそれは良いんですが、地域のおじさんおばさんでも老人会もあるし、趣味のものもあるし、そういう形でみんなの立場立場でしていかないと。だから今言われたように定年後はPTAに行けない、手伝おうと思ったら子ども見守り隊とかね。私は学校にちょっと近いから、縦割りで5時から6時までゼッケンつけたおじさんが2人いる。ただやっぱり横の連携、早く言ったら池田小学校のことがあったから警備員を置いた、今度はお金がないからってオートロックにした、銀行だったらいいけども学校とかは警備員が重宝している。私が何を言いに来たかという、地域の生の声を言いに来ただけで、私の意見を聴いて職員の方がそうだなとか言ってくれたらいいだけで、後は策定部会でやってくれたらいい話で、生の声を喋りに来ただけなんです。先生には申し訳ないけども。だから、ここで職員を責めるわけじゃないし、私は地域の意見を言いに来た。それからもうひとつ言

うと、たばこ。医師会はだめと言うが、たばこ吸って税金払って精神状態を良くする、なのに外で吸えて、そんなばかなことがあるかと。日中でも本屋の前とかコンビニの前とか、保護者が見たら勤務中に先生何しているんだとなってくる。市役所本庁だって喫煙所あるのに、教育の現場も市役所も一緒だろう。今喫煙者の肩身が狭い。そういうことです。私は市役所の職員責めに来たんじゃないで、現場の声。自治会はこんなですよ、ここはこうでって言って、策定部会が反映してくれたら良い、それだけ言いに来た。だから、仕事も有給休暇があるし、広島知事だって子育ての時間をとる、それくらいしていかないと子どもは生まれませんよ。そういうことで先生しっかりがんばってください。でも先生ここはお年寄りが多いから、先生が教えるのは若い学生さんだけでも、そのへん差し引きしてお願いします。以上です。

委員長：ありがとうございます。お願いします。

委員K：すみません。ちょっと話は変わるんですが、ボランティア活動とかコミュニティ活動の重要性を議論するなら、それがまったくなくなってしまったときのことを考えてみれば良いと思うんです。例えば自治会活動なんかでは地域の治安を守ったり、人間関係を調整したり。子ども会活動にとったら、学校外の子どもの遊ぶ場・学ぶ場をつくらせると思うんですね。今おっしゃられたとおり、世話役をしている人たちがほとんど70代が中心になっていると。で、非常に担い手も少なくなってきた高齡化しているという現状で、本当にコミュニティ活動がなくなってしまうのが間近に迫っていると私は感じています。で、ここで議論すべきは、やっぱり少数の高齡者がいっぱいになっていくんじゃないで、幅広く担い手の門戸を開いていく、社会的貢献を引き出していくにはどうしたら良いのかという方法論であるとか、それを条例の中にどういうニュアンスで織り込んで皆さんやってみましょうよという気持ちを引き出していくかというところが大切になってくるかなと思っています。

委員長：ちょっと訊きたいのですが、誰が方針をつかって、誰がマネジメントをしたら良い、もちろん分野によって性格の違いはありますが、結局マネジメントする人がいて、好きなときに好きなように学校で教えるような形ができるんです。が、例えば自治会は誰がマネジメントをして誰が方針を決めたら、みんなが地域活動できるようになるのか、そ

ういった問題で何かありませんか。

委員K：難しいですね。ただ、言えるのは市役所職員ではないと思います。その地域に住んでいる人、自治会の人話し合っって地域での広がりを広げていく。もし、市の職員ができることがあるとしたら、よその自治会ではこうやってますよという研修の機会を持つとか、そういう事例収集だったり情報提供だったり、そういうところでがんばれるんじゃないかなと思いました。

委員H：いつも思うんですが、自治会自体がどんな活動をして、会費を集めて、みんなそれをどんな形で考えているのかなというのを訊いてみたい。今自治会自体がバラバラのような状態で、自治会やってくれている人は一生懸命がんばってくれているんだけど、それについてきていない人は…自治会入ってない人もいろいろな方がいますよね。今は絆がまったく離れたような状態で。みんなひとりひとり自治会に対してどういう風に考えてますか。その意識を持っていないと、自治会の役の人は一生懸命がんばっているのに、自治会勝手にやってる・私知らないということが多いじゃないですか。自治会って本当に大事なんですよね。なのにみんな自治会に対してはそんなに…役員さんや会長さんは一生懸命がんばっているのに後の人はまったく…何かあるの？という感じですよ。

委員D：実際自治会は大変です。町内でひったくりが起こったとなったら、回覧板つくらないといけないし、それでラミネートして掲示板に貼って注意を促してとかをやっています。もちろん警察や消防からも回覧回してくださいとかありますので、それも回覧板にしますし。もちろん自治会費を集めて、そのお金で基本運営していきますので、そのための事業計画とか、予算・決算とか全部本部役員が中心になってやりますし。体育祭があるとか、何かしら活動するとなったら全部本部役員が動いて。で、予算の使い方としては基本的に防犯灯の電気代ですとか、設置とかもちろんですし、その自治会員同士のコミュニケーションの場にも使いますし、老人会や子ども会、防犯部や婦人部の各部門ごとに予算付けをしてそこの活動に対してお金を出していきます。私たちの自治会でしたらレクリエーションで日帰り旅行させてもらったりですとか、ですので会計でお金出して書記で回覧板つくって準備してとか、仕事量はかなりなんです。

委員E：それはどこも一緒。今言われたように、子ども会と今、市子連が私のところではあったし、PTAだったらPTA協議会もあるし、自治会だったら自治連合会だったり、そういうところで接点があると思う。市役所の各課で。おっしゃるように役をしたら大変、だけど誰かがしないといけない。そこをみんなで話し合ひましょう。私だけ喋っても…みんな一言ぐらい喋って帰ろう、みんな子育てはどうなんですか。市役所の公務員だったら休暇取れるでしょ。私の嫁も民間だったから辞めさせて専業主婦になったんです。そういうことで子育てもちゃんと休暇とってということなんです。がんばって。

委員L：まあできることはできるんですけど、都市化あるいは近所付き合いの希薄化、もう本当に言いたい放題で。かと言え、町会費でも払わないところがある。なぜかという、例えば、何に使うかということを読んでこられるんです。そうしたら防犯灯、体育祭のことで補助してくださいと言うと、私はそんなところ行かない、街灯の下も通らずに遠回りして帰ってくる、というような言いたい放題のこともあるから、それを何とかするのが本当のコミュニティだと。犬のし尿でもやりっぱなし、本当に困っています。だから今の言いたい放題、個人主義化、それが一番のネックです。

委員E：そこだけじゃないですよ。町会費払わないのもどこにでもいます。それはそれとして、向こうの方が言われたように自治会は回覧板だったり、決算だっしてしています。だからどこだって一緒なんだから…地域によっては門真市でも比較的環境の良い地区もあると思う。一生懸命ボランティアやっているところもある。そちらがたまたまそういう地域なのかもしれないし。税金だっして一緒に、払わない人もいるんだから。それを言い出したらきりが無いけども。だからそういう問題を、動物飼ったらだめとかいうけど、片目をつむるしかない、保健所に連れて行くわけに行かないし。

委員長：若い人から見て自治会ってどういう風に映っていますか。

委員C：自治会はよくわからない…

委員H：自治会をあげるような形を皆さんで考えていかないと、それが一番まちづくりの基本ですよ。自治会自体やっている人は一生懸命やっているんだけど、まったく無関係な考え方の人もいますよね。条例の

中にも自治会に対してそれだけの事を持たせていかないと。このままの調子でいったらどんどん考え方もバラバラになってくるし、絆も何もないですよ。基本的にコミュニティ自体がなくなっていく時代で。

委員長：はい。お願いします。

委員F：ボランティア精神の醸成というものがまず大事なかと。ボランティアをして何が楽しいのと私は言われますけども、ボランティアがどういうものなのかということがわかっていない方が多いかな。ただ働きとか。一番最近思うのは、年を召された方が、私が子育てをしていたときに子ども手当てなんかもらったことないとかで今のお母さんは気楽でいいね色々もらえてとおっしゃるんですが、もう年金生活しているわけでしょ。子育て世代が赤ちゃん産んで育てて税金払ってくれるようにならないと、あなた年金もらえなくなりますよ、それで良いのという話なんです。私言ってること間違っています？そうですよね。だから子育て世代に支援しているわけなんですよ。で、お年寄りの方はそれをわかってらっしゃらない方が結構…私たちの分削って子どもにあげるのかっておっしゃられる方がおられますよね。じゃあ子どもを育ててもらえなくて子どもがどんどん減ったら年金ももらえなくなりますよね。どうやって生活していくのという話になると思うので、そのへんも、私は赤ちゃん育ててる方についてはしっかり育てて税金納められる子にしてと思いますから。そのへんがどうも何か…

委員E：それは無理ですよ。あなたは賢いからわかっているけども、そんなの言ってもわからない。自分達の孫以外が騒いだら、うるさい！って。静かにして遊べとは言わずにうるさい！って。もう年とったらよその子は…あなたがおっしゃる筋道は、あなたみたいな賢い人はわかる。それをどうして老人会とかに集まってこうですよってすればいいけど。あなたそれは無理。本当の気持ちを言っているだけで…

委員F：じゃあこのままで良いんですか。

委員E：良いことはないから、どうするのという話でしょ。

委員F：だからどう思われるんですか。

委員E：だからそういうことを…

委員F：仕方ないで済みますか。

委員E：仕方ないではなくて、あなたはどうか考えるんですか。

委員F：コミュニティは、基本的に助け合いの場で…

委員E：それはわかる。

委員F：ボランティア精神がなければできないんですよ。

委員E：だから、そういうことをしようと思ったらどうするの。集会所におじいちゃんおばあちゃん呼んでお茶飲みながらやって…あなたみたいな賢い人ばかりだったら門真の投票率だってすぐ上がる。みんな選挙でも誰も行かない。私はあきらめてはいないですよ。

委員G：どうしようかという話をしているので、せっかく提案してくれていることに対して、わざわざ人を賢いとか賢くないだとかのレッテル貼りするような場じゃないんです。どうしたらいいのかという話をしましょうよ。

委員長：ちょっとあるようですので…

委員M：私もおっしゃられていることはすごく正しいと思いますし、最終的にそこにいくのが理想だと思うんです。たださっきおっしゃられていたような現状があって、ボランティア精神のない人って多いと思うんですよ。で。そういう人たちをすぐに振り向かせるのはやっぱり難しいので、まず手をつけるところは、ちょっとでも潜在的にボランティア精神があって、ただいろんな理由でできていない人をできるだけボランティアとか近所付き合いとかに…

委員F：そうなんです、マネジメントが。学校支援ボランティアでも誰がマネジメントしているんですか。

議長：マネジメントは学校支援のコーディネーターになります。

委員F：その50人を有効活用できないんですか。

議長：そうですね、それはどんどん考えていかないといけないですね。

委員：ちょっと話そらすのも…

委員長：話が途中なので…

委員M：すみません。そうやってちょっとずつ努力していくしかないのかなと思うのと、あと、委員長がさっきマネジメントとか引っ張っていく人は誰がするのですかと言っていたことなんですが、やっぱりそういう人は必要だと思うんです。誰かが中心になって周りを巻き込んでいけるような人・存在が必要だと思うので、そういうものに対してはそういう人を、育成するという言い方が正しいかわからないですが、そういうものを協働でやっていけるような、市も投げかけていけるような体制をこの条例に入れられたらと思うんです。

委員N：いいですか。

委員長：はい、お願いします。

委員N：遅れましてすみません。私もコミュニティといったらPTAに入りました。なぜPTAに入ったかという、子どもがいるからですね。私も結婚して子どもができた、PTAの役員やってらっしゃる方は45・6というぐらいなんですけれども。それまでは必要というか、家と会社の繰り返しなんです。門真に生まれてずっと住んで、親は老人会とかに入っていましたけれども、本人は結婚して子どもがいなければ、仕事だけで終わってしまうという現状がある。だから、子どもができて子ども会に世話になり、学校に入ってPTAに入ると、それで親もなんとなくコミュニティというものに参加していくけれども、それがなければまったく参加しない場合もある。そのへんをどうしていくか、子どもがいてないとかのね。年をとれば老人会とかもありますが、その中間世代をどのように引っ張っていくかということが必要かなと。実感としまして。

委員O：機会がないんですね。ただ、自治会は地域コミュニティの基本ですからね、やっぱりそこでそのへんの人たちを引っ張ってもらわないと。ただ会社に勤めているだけじゃなくて。多分一度でも参加したらこん

なことやっているんだなということで、一度体験してもらえたら参加しやすいと思うんです。ただその接する機会がないままで過ごしているのが現状だと思います。

委員N：若い方だったら消防団とかね。ただ、私が住んでいる地域もやっぱり昔から住んでいる世代と新しく入ってきた世代、自治会の人と一緒に色々やろうとしてますけども、やっぱりなかなか溶け込めないという現状があると。そのへんは2つの考え方ですよ。中間世代をいかに取り込んでいくか、その後は新しく入ってきた人をいかに巻き込んでいくかに問題があると思います。

議長：大阪府ではですね、地域コーディネーターという方が1000人設置されております。で、学校支援地域本部事業が入ってから、地域コーディネーターという名前が消えてしまったイメージではあるんですが、大阪府とすれば消えてはいないという概念です。ですから、その地域コーディネーターの方々のマネジメントをして、本来ならば地域の活性化を目指していくというのが本筋なんです。そのため、各地域コーディネーターは研修・合宿を受け、認定を受けられた方々ばかりです。そういった方を逆に活用する方向に行くのがベストじゃないでしょうか。あと、それに加えて自治会。自治会は当然地域に根付いていますので、全般的に橋渡しをする地域コーディネーターの活性化ですね。

委員O：地域コーディネーターという方たちは、ここへ来るまで知らなかったんですが、何かPRしているわけなんですか。地域に対して。

議長：いえ、それはないですね。そういう場がないですね。

委員O：でないと、連絡のしようがないし…

議長：昔は、地域教育協議会というものが各中学校区に存在しておりまして、その中で、地域と学校を結び付けましょうという担い手、これが地域コーディネーターの大きな役割だったんです。で、そのために大阪府が中心となって研修を重ねて、府下1000人を輩出したという形です。

委員O：それは学校関係だけですか。

議長：それは地域コミュニティということでの限定で、学校と地域という形になります。

委員F：門真では何人いらっしゃるんですか。

議長：20～30人というところです。そのうちの一人が私です。

委員O：知られてないですね。

委員E：PRが足りない。

委員P：一応自治連合で、自治会長がそういうことをお話していたと思います。

委員長：では、お願いします。

委員Q：その方たちの平均年齢はおいくつくらいなのでしょう。

議長：そこなんですよね。実は、大体60くらいまでですね。

委員Q：じゃあまだまだできるということですか。

議長：できますね。私もまだ50代ですから。

委員L：その延長で私もさせてもらっています。

委員F：その20～30人が集まって話し合いしたりとかは。

議長：かつてはありました。

委員F：かつて。今はない。

議長：今はないです。

委員長：では、お願いします。

委員G：小さなコミュニティというか、可能性があるものは周りにきっとあるんですね。あるのだけど上手くつながっていないということ、自治会

もひとつの集まり、あとPTAだとか。そういうものをネットワーク的に束ねるような市としての連合体みたいなものをつくって、そこから徐々に活性化。一気にはおそらく難しいでしょうね。全部が情報公開しあってやっていくというのが良いのかなと思います。具体的な話をすると、シルバー人材センターでも月1回清掃してるんですね。私は秋口ぐらいから参加しまして、ごみ拾って綺麗になったらスッキリします。そんな小さなことから参加していくと、その後気持ちいいということです。前回どなたかが市民全体で掃除してはどうかとかいう話もありましたが、それも非常にいい話だと思うんですね。だから、みんな一緒になって出会う、出会ってそこからコミュニケーションが始まる。そういうところからスタートする、先ほどの連合体の中で色々な団体が合同になって掃除しましょうとか。そういうのが、自治基本条例の中で何か組織化みたいなものを謳えたら、コミュニティの問題を解決できるんじゃないかなと思うんですけどね。

委員長：そういった意味で今、自治地域住民協議会とか、いろんな名称のものをつくる自治体が出てきていまして、池田市はコミュニティ推進協議会というものを小学校区単位でつくって、みんなで話し合っているいろんなことをしましょうという…はい。

委員G：そうですね。いろんなものを束ねると。

委員長：そうすると、お互いの特性を活かして活躍できるような…

委員G：全体で活動するようなことも企画しあってやると。

委員L：その清掃も、7～8年前にPTAと青年会議所であったんですけども、1年で終わってしまったから、やっぱりそういう管理する部門があれば良いんじゃないかと。結局つくったが、事業の問題とかが出てくるから、案外放っておいたままの感じになってしまって。だから行政である程度そういう組織的なことをつくってもらったら良いんじゃないかと思いますね。

委員長：池田市では小学校区単位で話し合っ、地域だけではできないこともありますよね。予算要望という形で行政に予算要望して、行政にいろんな事業をしてもらうという仕組みをつくっています。その場合でも地域で話し合うにはいろんな団体さんが集まる場がないと話し合えな

いので、いろんな名称で、池田市ではコミュニティ推進協議会で行っております。

委員G：それは自治基本条例の中に言葉として謳っているんですか。

委員長：言葉として謳っています。

委員G：ぜひ、そういうのを入れたいと思いますね。

委員長：具体的にはまた別の検討会とか別の条例をつくらないといけないんですけど、自治基本条例の更新をちゃんとしないとイケないですね。

委員O：門真にはすごくたくさん団体がいるのですが、それが一堂に集まっていたのが、門真まつりであり文化祭だったんですが、それもなくなってしまいました。結局そういう顔を合わせる機会すらなくなってきているので、そのへん、門真市の体制というのもあるんでしょうけど…門真自体、全国的ですけども子どもの数もどんどん減っていつていまずし。

委員C：もともとコミュニティとかいうもので、情報の共有であったり、あるいは情報の集積地になっていたものが、昔はそんな団体をつくる必要がなくて。例えば床屋に行ったら情報をもらえとか、どこかのお店に行ったら情報が集まるとかいうのがあったと思うんですね。で、今もそういう場所はあるんだけど、機能を果たしていないから、そのあたりバラバラになっているんじゃないかなというはあるんです。そこに集まれば、市の何らかの情報が集まっている、あるいは決まったことがその店に集まれば貼りだされて、みんなが目に見えるとか。そういう団体をつくるなというわけではないんですが、そういうところに積極的に協力してもらっても良いんじゃないかなと思います。

委員長：情報は集まるけども、ひとつの課題があってもみんなで解決しようかというときに、どこで発言します？床屋さんでは決められない。そのときに、PTAとか自治会とかが役割分担、持ち味を生かしてみんなでやろうかとなりますけども、やっぱりどこかで意見を…

委員C：お店でやればそのところやりやすくないですか。例えば個人でやってしまうとどうしても時間的にできないだとかいろいろ面倒はありま

すけど、お店がそういう風なことを仲介すればやりやすくはないですか。組織をつくってしまうと、組織に積極的に参加する人はいるけどもっていう形になりかねないかな…でも私は自然と人が集まるところに自然にそういうものが共有できれば、全員がごく自然に参加できる、強制とかではなく。理想論でしょうけど。

委員G：今組織をつくるといっている組織は、それを活性化するための組織ですからね。強制的に何とかしようという…

委員C：呼び水としてひとつそういうものを…

委員G：市役所がつくる組織であってはだめだと思うんです。それ自体はね。地域のいろんな組織が集まってくれる。難しいですよ。おっしゃるとおり難しいけども、そうしないと今のままじゃなんともならない。自然にできればいいとおっしゃるけど自然にはちょっとできない。

委員H：私も門真の地域うろうろしたことないのでわかりませんが、やっぱり寝屋川なんかだっただけでずっと歩いていたら、みんな一斉に最後何時に集まっていつもおはようございますと言って、そんなものでも確実に何時に誰々来てないから今日何かあったのかなという話もありますよね。門真はそういう形でお年寄りもみんな集まってできるようなところはほしいですね。そういうところがあれば自然にみんな朝集まって話しようとかかね。

委員G：よく知らないんですが、広報とか自治会なんかでシルバーとお茶会とか集まってするとかのメニューはものすごくたくさんあるじゃないですか。だから、きっと個別にはみんな集まっているんですよ。集まっているけどもみんなの前には見えてこない。

委員H：結構打越の公園とかだっただけでね、ゲートボールで朝早くから集まって、昼ごろになったら解散するような。あれもすごいなと思います。ああいうのは全体的にそういう方向で何かできたら自然体でみんな仲良く。そういうのをみんな求めていると思うんですよ。絆がその人たちにはできても他の人が全然…ゲートボールやってたらできるけども、他のことやるんだっただけでどうだろうとか、そんなものが個々に集まれば、もっとすばらしい形で。現状では我が我がという感じになっているから、ひとりでは絶対生活できないし、やっぱりみんなにお世話になっ

てそのときに初めて接触を持って、初めて機会を持ったときに貢献しようという。その機会が本当に薄れてきている感じですね。何とかその機会をたくさんできるような形でやってほしいなど。

委員長：はい。

委員M：さっきおっしゃっていたみたいに、そういうのをすばらしいと思える、一回でも経験したら理解できると思うんで、一回でも体験してもらえようような取り組みだとか、広報に力を入れるだとか、そういうのが大事かなと。

委員I：はい。

委員長：はい、お願いします。

委員I：先ほどの若い人は自治会のことどう思っているのかという話に戻ってしまうのですが、子どもがいる人はPTAとか子ども会とかに入れると。自治会は基本単位というのはわかるんですけども、最近引っ越しまして、ハイツに住んでいるのですが、自分がどこの自治会か知らないんです。誰が自治会長なのかも知らないし、そういう話が一回も来たことがなくて。たぶん門真でひとり暮らしをしている人や新婚で住んでいる方は、ほとんどが自治会の存在すら知らないんじゃないかなと思うんです。で、そういう人たちをどうやって巻き込んでいくかも含めて、この自治基本条例で考えていかないといけないのかなと思います。

委員D：はい。

委員長：はい。

委員D：マンションって難しいんです、自治会の中でも。自治会費納めてもらうとか家主さんがノータッチで、当事者同士で話し合いをしてくださいというところもあるし、マンションの管理会社が共益費に込みで自治会費を集金して年度末とかに世帯数分入れてくれるところ、ただし自治会の活動には参加しませんとか、まあ回覧板とか回してくれるところもありますし。だから極端に言うと、子どもさんがいらっやっで子ども会には入っているけども、そのマンション自体が自治会に

は入りませんという意思表示をされたら、その世帯は自治会に入ってなかったりする。そういう仕組みになってるんですよ、今の自治会というのは。だからマンションでそういう対応をされると、そこの方を自治会とかのコミュニティに取り込むのはなかなか難しいのが現状なのかなと思います。

委員F：極論になってしまうのですが、門真に住民票はあるわけですよね。住民票のある人はコミュニティに参加すると。だから理想ですよね。

委員L：そのマンションの中だけのコミュニティですそれは。自分達でつくってしまって、市のパッカー車は来なくて自分達で決めてよそから来てもらってごみを捨てる。近所でももうそういうことになってしまってるんです。

委員F：そういうことがどんどん広まって、あそこもそうなんだ、私たちもそうしようってなるわけでしょ。だからそういうことができないような仕組みをつくらないとどんどん増えていくんじゃないかな。

委員E：この間ニュースで京都のまちが、新しい町並みやマンションが建ったりするから、それは自治会と京都市が話し合っとうしようかと。だからこのへんもおっしゃるとおり古川橋の市長の地元も一緒、マンションが建っている。そういうので、ある程度自治会の会長、連合、行政が話し合わないからダメなんです。だから行政に、こんな状態だから一緒に考えていこうと。そうしないと今言われたような、子どもは校区の体育祭したいけど、自治会に入っていないから来るなというような問題も、マンション建てるときに一筆とるとかしていかないと、建ったはいいがオーナーが…

委員長：マンションも賃貸と分譲によって違うと思います。私も戸建から分譲マンションに移ったのですが、マンションの中で自治会ができていて、自治会加入率が8割くらいです。で、周辺の地域の人たちとの話し合いにも参加しますし、地域の行事にも参加していますので、マンションの中の自治会運営をする人のマネジメントの問題かなと思います。

委員F：それを簡単に許してしまったんでしょうね、最初。

委員H：それは強制的にはできないからね。初めて接触を持って世話になった

ときに、やっぱり入らないといけないとなるからね。接点がうまくいったらいいけど、そこを本当に考えていかないと。強制だったら入らないとなりますからね。

委員F：そこは話し合いでしょうね。

委員H：だからそういうところを本当にどういう風な形でやっていくかですね。

委員E：だからワンルームと賃貸の子どもがいてるマンションと全然違うからね。子どもを学校に通わせないといけないから。いくら私学といってもやっぱり…

委員長：はい、手を挙げられていたので。

委員C：終わりました？この今あるコミュニティというのはどれくらいの年数たっているものなんですか。昔のままか、ある程度規模の縮小なり拡大なのか。で、それは例えば今こういう時代になったからとりあえず拡大・縮小しましょうなのか、その都度やってきたのか。一応定住を目指すと言っても変動はあるわけじゃないですか。で、色々と生活も変わってくるじゃないですか。そうするとコミュニティのあり方も変わってくるわけじゃないじゃないですか。コミュニティっていうのはこういう形であるべきですよっていうんじゃないで、これをどういう風に変えていくかという、例えば、何年かごとにコミュニティのあり方を相談するということもつくる、あるいはそういう機会を設けるというのも条例の中に入れておかないと、また何か問題があったときにコミュニティどうしようということになると思うんですよ。で、それがなかった結果として、コミュニティに参加する人が少なくなったとか、こういう人が出てくるだとかなっていると思うんですよ。条例の中には入れておくべきじゃないですかね。

委員H：本当にいろんな意見を出してもらってみんながこうだなという意見をまとめておかないと、やっぱりこれだけ希薄になってきたからこういう状況を招いているからね。これからは一生懸命考えてどういう風に持っていくか、コミュニティを大事にするかというのを真剣に考えておかないと。これ以上になったら本当に無関心になって大変になる。関心の輪の中に入ってもらわないと。みんな一生懸命考えているのに、

外に出たらまったく違うようなことになっていますからね。

委員L：自治基本条例というより住民基本条例、そう思います。住民の基本的な考え方が抜けていますので、最近では住民基本条例のほうが良いんじゃないかと思います。

委員R：いいですか。

委員長：はい、お願いします。

委員R：今コミュニティの話が出ていますが、本当にコミュニティは大事だと思いますし。で、コミュニティは何かということから積み上げていくような考え方も必要なのかなと思います。さっきから言われてますように、自治会は地縁ということで、そこに住んでいるということだけで集まれる団体だと思います。やっぱりそういうところが、我々行政ですけれども、地域のいろんな問題を知ってらっしゃるんです。防犯でも、どこが暗いかというのは自治会に訊かないとわからないし、やっぱり自治会の班の方がそういう情報を持っているんです。で、防災のことも大変地域では関心があるんです。地震起こったらどうしたらいいのかとか避難所はどこかとか、この路地は通れなくなるんじゃないかとか、そういう防災のことを考えるうえで、地元の人やっぱり関心を持って考えてらっしゃいます。そういう自治会のつながり、コミュニティというようなところで、住民がより良く暮らせる課題をいっぱい情報として持っていらっしゃいますし、そういうところが情報を得て考えることが、行政が上からやるだけじゃなくて情報を得てやるというのが今大事なのかなと。細やかな地域の課題に応えられるのかなと思いますね。やっぱりそういうことを考えれば自治会ないしは地域のコミュニティが大事なんだと自治基本条例を考える中では基本的なところで捉えておかないといけないのかなと。それがあってこそ自治基本条例の本来である住民自治を一層進めて、地域でより良い生活ができるようにするというのが広がるんじゃないかなと思いますので、自治会やコミュニティが生活の中で大きな役割を果たしているんだということをぜひ謳っていかないといけないんじゃないかと思います。

委員S：はい、いいですか。

委員長：はい。

委員S：色々聴いていましたら、やっぱり住民の意識をどのように変えていくのかということなんですよ。変えていくためにはこういった自治基本条例があるよとか、どうしたら住民の意識が変わるのか、そのへんを考えていったらいいと。変えないといけないんですよ。どうしたら変わるのか。若い人だったら自分の興味あるものだったら食いつくのかなとか、そういうものと出会ってコミュニティに取り込んでいく。そのへんいかに意識を変えるための条例にするかですよ。

委員G：今おっしゃっていた、なぜか、防災防犯だとかかなりたくさん良いことをおっしゃって聴いていたんです。コミュニティが必要だと言っていますが、なぜなんだというところを今全部整理されておっしゃっていたのでそういう文言をね。入りたくない人に対しての説得力を持ったコミュニティでないとだめなんですよ。多様なコミュニティはあるんですが、少なくともどこかにはまらないといけない。「なぜ」のところに語ってコミュニティが大事なんだということになると説得力が出てくるんじゃないかなと思います。で、その中におっしゃられた、それぞれの多様な趣味や考えがありますので、コミュニティは自治会だけじゃない、自治会は核になると思いますが、セルが何重にも重なってそれを束ねるような横断的な組織がひとつあれば、最初は動きにくいでしょうけど、だんだん良くなっていくんじゃないかなと思います。まったくそういうものがないですからね、横で動かしていくものが。

委員H：今の門真自体が、定住者がいられない感じになっているから余計コミュニティはなくなっていくですよ。10年このまちにいたら、絶対誰かの世話になって助けてもらわないといけないし、そうやって初めて協力・奉仕しないとけないとなる。そうやっていく形のまちに持っていけないといけないから、それをどうするかということですよ。接点をどうやって見つけだすか、それがこれからの課題だと思います。

委員G：ちょっと質問なんですけど、自治会で把握している情報というか、例えば大地震があったときにどこに高齢者が住んでいるとかの情報は把握できてるんですか。できていないんですか。

委員E：完全じゃないですね。

委員G：ということは、ある程度目標としてはやろうとしているわけなんですね。

委員E：そこまでは…だからある程度、防災訓練は消防署に消火器の使い方…

委員H：でも阪神大震災で、コミュニティがしっかりしているところはかなりと言われてはいますもんね。

委員E：それは名簿があるから確認できます。ちょっと防災の話で私の経験ですが、自治会長が号令かけて月に1回掃除します。おばあちゃんがこけて救急車が来た、自治会長は後から聞いて搬送された病院に行ったら、個人情報ですのでということ…私も怒りました。で、後で悪かったとは言わないが、間違えていたと。阪神大震災はすごい地震だけでも、ここも淀川がある以上大変ですからね。なかなか100%助かることはないから…仕方ないですね。

委員M：すみません。ちょっと防災の話から変わりますが、ボランティア精神をどうやって育てていくかなんですけれども。地域の絆は現状で課題に直面しているし、すぐ取り組んだほうがいいのですが、長い目で見るのも必要だと思うんです。やっぱり子ども達に、子どもの頃からそういう土壌があって教育を受けていたら、大人になってもそういう精神を持ち続けていられるかなと思うので、子どもの教育の中にボランティアに関わることを入れていけたらその方が良いかなと。

委員E：やっぱり子どもを、三つ子の魂百までと言うけども、やっぱり家庭で子どもを産んだら、困ったときには助けるとか子育てしながら教え込まないと、両親が、もちろんシングルの場合もあるけど。よくニュースであるのが産みっぱなしで母親ができない人もいるし、男性も放っておいたままにするからだめだけれども。学校でボランティアを教えるのも必要だけれども、英語を教える前に日本語を教えないといけない。英語はしたい人がしたら良い。今は機械・技術で翻訳できるから。人間を育てるのは難しい、だから若い職員の方、子育てを頼みます。

委員T：今子育てとおっしゃっていただいていたんですけれども、国自体が今子育て放棄の時代でしょう。子どもを保育所に預けて働きなさいという方向に向かっています。今、国でワークショップをやっているんで

すけれども、幼稚園・保育園をなくして子ども園をつくろうと。まだ検討している最中なのでどうなるかはわからないですけれども、ただ、国自体はそういう働くお母さんに補助を出して子育てを…補助と言っていますが私からしたら子育て放棄のための補助金じゃないかなという風にしかとれなんですけれども。本来幼稚園の子どもは、文科省の教育要領によって教育ということだったんですけれども、保育園はそういう規定がなかったんです。で、昨年初めて保育指針が改定されて保育園・保育所の人たちにも幼児教育を受けさせなさいということが決まったんですけれども、現状を見てみると今まで保育士の資格しかない人がそのまま働いておられると。これから幼児教育の免許を持った人、両方持っている人がどんどん採用されていくと思うのですが、先にそういうことが決まっていながら、実態的にはなされていない。前にありました小一プロブレムにしても、幼稚園では集団的な教育をしているが、保育園では来る・帰る時間がバラバラでそういうことができていなかった。多分私の立場から言うと、保育所に行っていた子が集団生活に慣れていないんだらうなと思いました。だから私が思うには、3歳までは親が育てるべきじゃないかなという風に思っています。なかなか難しいですけどね。

委員H：結構保育園のひとりの補助金って結構高いですよ。それだったら子どもはその分お母さんに見てもらったほうが良い気がするんですけどね。

委員T：毎年、私立幼稚園・公立幼稚園・私立保育園・公立保育園のデータを出しているんですね、大阪府全体で。やっぱり公立保育園がトップで、次に私立保育園、公立幼稚園、私立幼稚園が形式的には一番安く上がっております。何倍というぐらい違いますからね。

委員M：私のイメージで言うと、ボランティアとかに関しては小学校・中学校とかでそういう機会に触れさせるのがいいのかなと思います。そういうことを考えたら、親から子に教えるというのにこだわらなくてもいいのかなと思います。

委員T：ただ基本的に、親の愛情を受けている子と受けしていない子ですね、今私のところにキンダーカウンセラーという方が来ているんですけども、幼少期に愛情を受けていない子は中学生になっても影響が残っているとおっしゃっているんですね。ですから3歳までの親の愛情は大

事なんじゃないかと思っています。

委員F：すみません。

委員長：はい。

委員F：3歳まで親のそばにいるということが大事なのもかもしれませんが、子育てって非常に孤独な仕事でして、息が詰まるんですね。特に3歳ぐらいの子って。もし3歳までお母さんがお家でみるということだったら、お母さんをボランティアに巻き込む、子育て世代のお母さんが、自分達のほしいサービスを相談して。それはもちろんボランティアですよ。ただ、3歳までの子どもは、ボランティア活動しているときは預かってもらわないと無理なので。だから本当に一人ぼっち感が結構あるので、3歳まで家で…たしかにそのほうがいろんな意味で…3歳まで思い切り愛してもらおうとまっく成長できるんですね。だからいらいらしたりとかするときに、お母さんがボランティアで自分達のコミュニティをつくれるような仕組みがないと、より孤立するかなと。

委員C：元々そういうのを補うためのコミュニティだったんですよね。各家庭で辛い部分が出てくるけども、それを近所付き合いの中で和らげていく。それが元々のコミュニティじゃないんですかね。そのほうが本来のコミュニティのような感じはします。で、今気になったのは、コミュニティとボランティアが一緒くたになってしまったのがすごく気になったんですけれども。ボランティア精神はいいんですけど、ボランティアっていう言葉をちょっとなくしませんか。ボランティアじゃなくてできることがやっぱりいいんじゃないですか。ボランティア精神を養いましょうというとすごく仰々しいんですよ。悪いことじゃないんですけど、なんだか特別感がありすぎて。ボランティア精神があろうがなかろうが基盤に感謝や助け合いの気持ちを養っていこうというのがあれば、それがボランティア活動に消化されたときにそれがボランティア精神になるのであって。ボランティアという言葉がものすごく頭の中に踊っているので、言わせていただきました。ボランティアでなくてもできると思うんですけどね。

委員長：はい、お願いします。

委員D：小学校の学校支援コーディネーターで図書室のお世話させてもらって

いるんですけども、小学校でキッズサポーターという、高齢者やお母さん達が見守り活動をしてきているんですね。その人たちに対してお母さんが子どもに、サポーターさんの言うことをちゃんと聴きなさい、サポーターさんにありがとうって言いなさいと教えてくれているんですね。図書のボランティアさんを見ても子どもにとればサポーターさんなんです。で、ボランティアよりはサポーターのほうが言いやすいということで、私たちのところでは、図書ボランティアの名札を図書サポーターにしたんです。サポーターっていうのは応援してくれる人じゃないですか。どっちかというところのほうが私は馴染みが良いんじゃないかなとちょっと今思ったんです。ボランティアっていうよりは、応援してくれる人みたいな感じの、ボランティアはあんまりみたいな言い方をされていたので。だ、私もボランティアとか応援してくれる人、コミュニティのことを教えるんだったら、できたら小学校のほうがいいのかなど。で、おっしゃっていたみたいにそういう活動とコミュニティは別だと思うんですね。コミュニティというのはお互い様の場だと思うんですよ。私も実際経験して、子ども帰ってくるのに自分が帰れないときに、近所の方がよく預かってくれたんです。やっぱりそういう関係をつくれるところがコミュニティなのかなと。すみませんと言ったときに、いいよいいよと言ってもらえるところなんじゃないかなと思うのですが。

委員G：今ボランティアという言葉で色々あったので。私が思うにボランティアというのは単に、今度〇〇しますけどどうしますかと言って、出席しなさいと言うのはボランティアじゃなくて、ボランティアは手を挙げる人ぐらいの意味なんで。ですから、有償ボランティアもあれば無償ボランティアもある。今は無償ボランティアをボランティアとしてしまって、大げさなものになっている気がしないでもないです。単にコミュニティの中で暇な人、空いた時間がある人、こんな活動に参加しませんかと言われたときにボランティアというぐらいの…

委員C：そこでボランティアしませんかというよりは、暇な人何かしませんか。できたらで良いと思うんですよね。逆に私はひねくれ者だから、ボランティアと言われるとちょっと顔をそむけるんですよ。逆に面白いことやって驚かしてやろうというのだったら私は行くんですよ。それが有償だろうと無償だろうと。

委員G：あなたとボランティアの感じが違う。ボランティアは何かしてあげる

というような感じに思うから大げさなものになる。ボランティアは自分が喜ぶんですよ。まあ言葉のことだから…

委員H：辞書で調べると、公共福祉のための自主的に無報酬で奉仕活動をする人です。この意味が色々有償になったり無償になったりして、変に飛ぶからその意味がちょっと違うなとなる。

委員長：はい、お願いします。

委員Q：私の場合には有償も無償も無関係ですけどね。自分が成長できると思うんです。楽しいからやってる。掃除とか子どもの見守りとかの中には有償と無償ものもありますが、とりあえず子どもと接していて子どもから学ぶことがあります。この子はなぜこんな寂しい性格なんだろうと思いつつ観察していたら…やっぱりコミュニケーション、家庭で親と全然話していないんですね。そんな子が多い。そんなときに私たちがお手伝いして、それで結局自分が成長しているんだなと楽しんでいますがね。ボランティアという言葉にとらわれないで、自分ができることをさせてもらう。

委員H：奉仕活動で考えていたら、ボランティアも…

委員C：奉仕ってという言葉が今出たときに、それでいいじゃないかと。なぜボランティアって横文字で言わないといけないのかなと思って。奉仕のほうがしっくりきますね。

委員H：自分もボランティアして、有償で、先生にボランティアの心として払っているからと言われたのがすごく印象にあります。やっぱりそれはそれで良いと思うんですね。だから奉仕活動って言ったらいんじゃないですか。ボランティアと言われるとボランティアの意味がわからなくなってくるし。条例に奉仕活動と入れたらすばらしいものができると思います。

委員C：じゃあ条例の中には横文字を極力使わないと。頭の方からつま先まで日本人である我々にとって横文字の内容はちょっと厳しいです。

委員長：はい、おねがいします。

委員U：皆さんのおっしゃっていることを聴きながら頭をめぐらしていたのですが、今日自治基本条例を考えるということで、私の頭で考えていたのは先生の書いてくれたコミュニティの何条のところに、どういう風な文言を入れていくのかという部分の基礎となる部分を皆さんにやっていただいた。その中で思っているのが、理念を書いていくのか、システム、コミュニティ協議会みたいな話もされていましたが、そういう形で書いていくのか、ミックスで書くのか、いろんな考え方があると思うんですね。で、実際話を聴いていたら私の経験とまったく一緒だなと思いながら聴いていたのは、私も今大阪市内の自治会役員を20年ほどさせてもらっています。PTAの会長もしましたし、子ども会の会長もやりました。で、その中で、先ほどからの話で、ずっと15・6年会計をしていました。すべての金の動きもわかるので、先ほど皆さんが言っていたいただいていたことも、どこも一緒だなという思いはあります。先ほど言っておられた、近所お互い様の話が今もう少なくなってきた。先ほど言っておられた、高齢者どこにいますかというのわかりますかという話ですが、実は私どもの町会ではどこにいらっしゃるか全部わかります。それぐらい色々中に入っている。ただ今、コミュニティという概念も色々あって、大から小からいろんなコミュニティがある。それを包括的な、なおかつ自治の基本となる条例の中の文言をどうするかというところにもものすごい難しさがあると思うんです。でその中をどういう風に包括して表現するか、表現を包括してしまうとまた弱くなってしまうのもあるので、色々多面的に考えたら良いと思います。ただ、ひとつ言えるのは、私20年前からやっているということは30歳くらいからやっているんですが、あんまり初め自治会の活動って行きたくなかったんです。あることから行って、せつかく来たから一生懸命やろうと思ってやり始めたら楽しかったんです。行くときは嫌なんだけど、帰りは清々しい気持ちになって帰ってこれるというのがあるんですね。そういうことがあるので我々の町会ではマンションができれば、子ども会ができればそれぞれ呼びかけられるようなシステムづくりをずっとしているんです。たとえば、町会で餅つき大会をやる、子ども会を巻き込んでやろうとなったら子ども会の人もみんな来るんです。で、子どもが餅つきして、私たちはこねたりして。婦人会からもみんな出てきてくれてやるというようなことで、ひとつのつながりができる。で、マンションだって本当に排他的にコミュニティはつくりたくない、ここに住みたいだけでお金さえ払えばということで、町会費だけ払ってもう来ないでというところもあるし、先生が言われていたみたいにちゃんとお金も払っ

て、地域の一員として入れてくださいというようなところ、色々あるんです。で、若い人が来ないんです。実際活動している人は定年過ぎた60歳より上の人がやっている。働いているとなかなか土日に出にくい、実際の話土曜日来てくれと言われてもちょっと休みたい。ご年配の方は朝早いから朝8時からだよってと言われてもまだ眠たい、という思いがあります。10時くらいなら行ってもいいかなとか色々あるんですけど。でも行ってみたらそれなりに楽しい。そういう部分があるので、願わくば私が思っているのは、他の地域で成功している事例もあると思うんです。それと今皆さんがおっしゃったいろんな意見を突合せながら、門真にとって一番良い表現はどういう盛り込み方をしたらいいかというのを考えていけたら良いかなと思って、ずっと聴かせてもらいました。

委員長：ありがとうございます。ちょっと時間も迫ってきたのでまだ発言していない人なにか…はい、お願いします。

委員V：私も先生がここに書いたコミュニティの条例の部分で大体うまくまとめられているな感じをしながら話を聴かせてもらってたんですが、今小さなコミュニティがいっぱい地域の中にあると。先ほどありましたように学校支援とかもあるんですけど、すべてのコミュニティの上には必ず行政が絡んでいるんです。でも横のつながりはあまりない。私も自治会の役に入りだして色々考え出してから、やっぱり班がきっちりやってくれたら自治会がうまく機能する感じも受けましたし、やっぱりこちら側から地域に呼びかけをして大きな渦を巻き込んでという運動をやっていないと、コミュニティはなかなか発展していかないなと思います。

委員W：はい。

委員長：はい、お願いします。

委員W：今コミュニティの活性化という話で、なかなかされていないということです。具体的な話をします。一番活性化しそうと前から思っているんですけども、ひとつのコミュニティにグラウンドゴルフできる場所をつくるわけです。田舎には敷地がたくさんありますから、そういう場所をつくっておきまして、和気あいあいとやっているんですね。都会ですから、グラウンドゴルフできる用地は限られていると思

いますけれども、せめて8ホールでもつくったら、まず高齢者は喜んで出てくると思います。で、子ども達もできるようにしたら、高齢者と子どもの交流ができたりする。普段交流のない高齢者もこういうことをやると自然と話も出てくると。そうすると情報交換もできるし、私は非常に活性化するんじゃないかと思うのですが。それで問題はグラウンドゴルフ場をどうやってつくるかが非常にネックになると思いますけども、そういうことを一回やってみたらどうかなど。そんなに費用はかからないと思いますしね。そういうことをちょっと考えております。

委員長：はい、おねがいします。

委員X：私は大阪府老人大学門真学友会というのを世話させてもらっています。皆さんいろんな意見がありますが、結論はというと、自分自身もっと勉強する、大体生まれてきたのは勉強するためという考え方ですね。だから自己学習というのが基本になる。ボランティアと言っているけども、ボランティアでも何でもいいのですがさせていただくという精神、それで全部解決すると考えております。

委員長：はい、ありがとうございます。まだ何か発言されていない方も何かありますか。おねがいします。

委員Y：私はマンションで育って、そういうのに参加していないまま大きくなったんです。いろんな方がいろんな問題を解決したいと思って地域をつくっていったらんだなと思って聴いていました。そういうみんなの思いが盛り込めるような条例になれば良いなと思うんです。

委員長：では、この施設の問題もあり、時間の問題もありますので、今日お話いただいたことを一回私の中で整理をして、条文の中に形として盛り込ませていただいて、3月下旬の策定部会で整理してもらってそれをまた検討部会で議論したいと思います。検討部会としては次回、協働の話をしていただいて、その次条例として門真市に必要な漏れている内容はないかという検討をしていただいて、それから繰り返し皆さんと議論をしていきたいと思います。できれば最初に配布しております大阪府内の自治基本条例を整理した一覧表などを見ながら検討していただければと思いますので、よろしく願いいたします。ではそろそろこのへんで終わらせていただきます。

議 長：皆さんたくさんのご意見出していただき本当にありがとうございました。時間がもう迫っておりますので、まことに申し訳ありませんがご質問は割愛させていただきます。それでは事務局より案件3、第8回検討部会の日程調整等をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

—事務局より日程調整。第8回検討部会は4月22日（金）午後7時に決定—

議 長：ありがとうございました。本日これをもちまして検討部会を終了させていただきたいと思います。委員の皆様長時間どうもありがとうございました。

委 員：ありがとうございました。